

第146期 **報告書**

2021年4月1日～2022年3月31日

おいしさ、思いやり、いつもいっしょに。

ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第 146 期の事業の概況と決算につきましてご報告申し上げます。

2022 年 6 月

代表取締役社長 吉 田 康

事業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が継続したことに加え、新たな変異株の出現により感染者数が急増し、緊急事態宣言の再発出ならびに、まん延防止等重点措置が適用されるなど先行き不透明な状況が続きました。各種の感染防止策を講じ個人消費に持ち直しの動きがみられたものの、世界経済の回復に伴う各種価格の上昇や東欧での地政学的リスクの高まりなど、景気下振れリスクが増大する局面を迎えました。

菓子・飲料・食品業界は、行動の制約が求められる中で内食需要が続き堅調に推移しました。一方で、原材料・エネルギー価格の上昇や円安進行の影響が日常生活に現れ始め、消費者の節約志向が高まりました。

このような状況下で、当社グループは一貫して食品製造企業として品質保証第一主義に徹し、感染防止対策の徹底を図りながら、安全で安心な実質価値の高い商品の安定した供給と、消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。具体的には、感染症禍において一層高まった家庭内消費に対応した商品展開や健康志向への取り組み、ECチャネル需要の増加等による消費者の購買行動多様化への対応など、求められる価値の実現に機敏かつ柔軟に取り組みました。加えて、商品ブランドの強化と付加価値を高めた魅力的な商品開発に取り組みるとともに、営業拠点を活かし可能な範囲で最大限の店頭フォローを続け、企画提案型営業によるお客様の満足につながる活動を推進してまいりました。

その結果、パーソナルユース商品が回復傾向にあったことや、バスケット品目が家庭内消費傾向の継続を受けご支持をいただいたことなどから売上高は順調に推移しました。利益面では、生産性の向上とコストの削減、経費の効率的な使用に努めましたが、原材料・エネルギー価格の急激な上昇により営業利益が伸び悩みました。一方、為替差益を計上したことから経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は底堅い推移となりました。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は、89,989百万円となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレートなどの品目を展開しています。

ビスケット品目は、1本の満足感を高めた「贅沢ルマンド」を発売したことに加え、シリーズ品として宇治抹茶カカオなどの期間限定商品を展開しご好評をいただきました。また、長年培ってきた菓子製造技術を活かし、チョコレートが手につかない新しいクッキー「ショコラ」と「フォンティア」を発売しました。マイベネフィット商品群は、発酵バターを使用した濃厚な味わいの商品「パタースコッチサンド」や、ホワイトチョコレートでコーティングしたパウダーケーキ「ミルネージュ」を発売し、品ぞろえの強化を図りました。さらには、季節に合わせた展開として抹茶、バナナ、夏塩、いも・栗、ホワイト、いちごのフェアを実施したほか、パッケージにキャラクターをデザインした限定商品を発売し、充実の品ぞろえで売場に彩りを加える提案を行いました。一方で、おいしさと糖質のバランスを考えた「カーボバランス」シリーズや、ノンフライのおつまみ商品「えびつま君」、「たらつま君」を発売し、健康志向のニーズにお応えする商品展開を行いました。品目全体では、ファミリーサイズ商品群やパーティプスイーツ商品群、「ロアンヌ」シリーズもご好評をいただきました。

キャンデー品目は、「フェットチーネグミ」シリーズで、期間限定商品の発売やルート限定の商品展開を行い、品ぞろえの充実を図りました。また、過去の販売商品の中から投票によって選ばれた3種の味を掛け合わせた「フェットチーネグミみんなの青春の味」や、さわやかな酸味のラムネ菓子「フェットチーネグミのきゅんとすっぱいヒミツ」の発売に加え、TVCMや消費者キャンペーンなどのプロモーション展開を行いブランドの強化に取り組みました。新たな食感を持たせた新規性のある商品として、「プルプグミ」や「しゃりもにグミ」、「まるごろグミ」などを展開し品目全体の底上げを図りました。

チョコレート品目は、「アルフォートミニチョコレート」シリーズに、期間限定のバナナやゴールドクワイを展開したほか、「アルフォートミニチョコレートストロ



ベリー」を発売し品ぞろえの強化を図りました。併せて、新CMや消費者キャンペーンを行いブランドの活性化を図りました。また、ピスタチオを使用した「アルフォートミニチョコレートプレミアムピスタチオ」や、「ラッシュ」シリーズの「ピスタチオラッシュ」を発売し、お客様のニーズに応える商品展開を行いご好評をいただきました。品目全体では、マイベネフィット商品群やチョコスナック商品群、「じゃがチョコ」シリーズなどにもご好評をいただきました。

菓子全体では需要が落ち着いた商品群があったものの、家庭内消費傾向が依然として続いたことから順調に推移しました。

飲料・食品・冷菓・その他の合計売上高は、4,461百万円となりました。

飲料品目は、ミネラルウォーター商品群において、キャラクターデザイン商品のリニューアルに加え、環境負荷低減の取り組みとしてプラスチックラベルを除いた商品を発売しました。一方、「牛乳でおいしくつめたいココア缶190」の取り扱い拡大に努め、さらに「牛乳でおいしくピスタチオPET270」を発売しブランド認知の向上を図りました。

食品品目は、「240gミルクココア」が家庭内需要の継続によりご好評をいただきました。また、「冷たい牛乳で飲むココア1日分の鉄・Ca」を発売し品ぞろえの充実を図りました。さらには、災害の発生による防災意識の高まりから保存缶商品にもご支持をいただきました。機能性食品では、「セノビックバーミニソフトクッキーココア味」を発売しご好評をいただいたほか、体内でエネルギーになりやすい中鎖脂肪酸油(MCT)を配合したバータイプケーキ「MCTプラスバイクドショコラ」を発売しました。「スローバー」シリーズや、従来品よりたんぱく質を増量させた商品を発売した「プロテインバー」シリーズにも継続してご好評をいただきました。

冷菓品目は、ミルクの優しい味わいを持つモナカアイス「ホワイトロリータアイス」を発売し、Webプロモーションでの商品認知向上を図りました。「ルマンドアイス」や「ロアンヌアイス」においても、期間限定商品の発売やリニューアルを行い商品認知向上に取り組み、当社独自の“お菓子アイス”シリーズの品ぞろえ強化を図りました。併せて「久米島の紅いもアイス」を発売し、ご当地ならではの素材を使用した商品展開により品目全体の底上げを図りました。

その他では、通信販売事業は、当社オンラインショップ限定の新製品詰め合わせセットや季節、催事に合わせた企画展開を実施し、付加価値を高めた魅力のある商品提案を行いました。また、日本産業規格の適合審査で「JIS T9001」に適合した「50枚入不織布マスク」にも、引き続きご支持をいただきました。

自動販売機事業は、多様な商品を取り扱うプチモールの設置台数の増加と、設置環境の選択等による収益性の向上、効率化に取り組み、対面接触を避けた食品販売

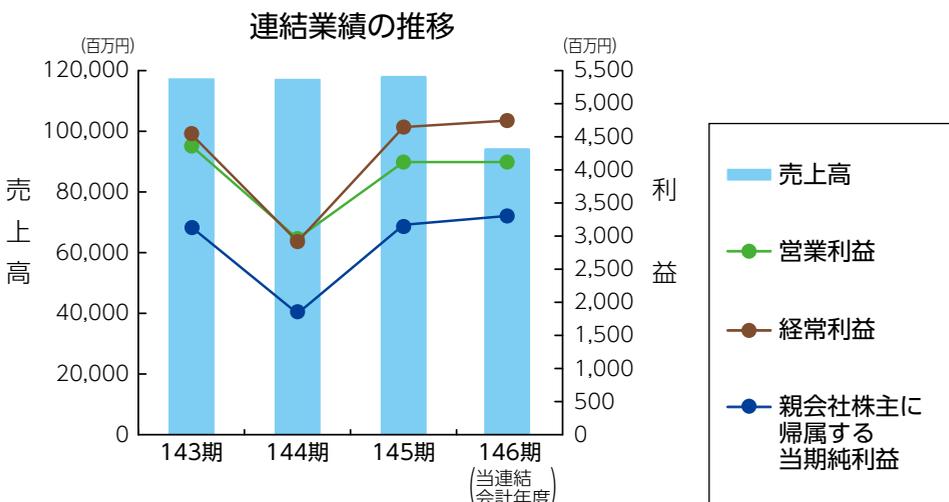
ツールとしての環境整備を図りました。個包装の「8枚入不織布マスク」の展開を開始したほか、人流の回復に伴い需要も回復傾向で推移しました。

酒類販売事業は、ナショナルブランド商品群で、季節ごとに限定醸造商品を発売し継続的な認知向上に取り組んだほか、家庭内消費の増加を背景にご好評をいただきました。さらには、輸出商品の需要も回復基調にあったことから、全体でも順調に推移しました。



以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当連結会計年度の売上高は94,451百万円、営業利益は4,117百万円、経常利益は4,745百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は3,374百万円となりました。

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、2022年3月期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。対前期増減率は記載しておりません。



当社グループは、食品製造企業として品質保証第一主義に徹するとともに、安定した原材料調達と商品供給体制の確立、原材料のトレーサビリティ、フードセーフティーへの取り組み強化による品質保証体制のレベルアップを図ってまいります。

また、消費者の皆様への「心と体の健康づくり」に寄与する健康増進総合支援企業を目指し、ビスケットやチョコレートをはじめとする多様なカテゴリーでバラエティ豊かな商品や、未病対策として生活習慣病予防のための機能性食品、健康食品の開発を進めてまいります。

将来に向けては、持続的な発展のためESG（環境・社会・ガバナンス）を経営戦略と捉え、SDGs（持続可能な開発目標）の17の目標に準拠した活動を明確にしております。そして商品の品質向上や顧客満足度の向上、コンプライアンスに注力しつつ、環境貢献投資、健康寿命の延長、防災・減災などの社会的な課題の解決にも取り組んでまいります。

その他、新型コロナウイルス感染症の流行、および原材料価格や原油価格の高騰、さらには地政学的リスクに端を発する原料の安定調達に関する課題など、経営を取り巻く環境は日々変化し、また、先行きの不透明さも増しておりますが、顧客第一主義の下、生産体制の維持と商品の安定供給に努めてまいります。

① 新製品開発体制の強化

- ・ビスケット市場のシェア拡大に向けた既存ブランドの新規形態品やシリーズ品の開発
- ・新しい価値を創造・提案するチョコレート商品の開発
- ・菓子製造技術を活かした付加価値の高い冷菓商品の開発
- ・次世代を担う主力商品の開発、新たなブランドの構築および新カテゴリー群の創出と育成
- ・優位性・新奇性に富み、差別化された商品の開発やそのための新設備の導入
- ・先端・先進的領域の研究を通じた新製品の開発

② 新たな需要を創造する営業体制の強化

- ・企画提案型営業による楽しい売り場演出・サービスの提供
- ・流通チャネル・得意先別要望への適時対応と積極的な企画提案による関係強化
- ・自動販売機事業、業務用商品販売事業およびeコマース事業の品揃え強化による採算性の向上のほか、新たな付加価値を提供するスマートリテールの開発
- ・キャッシュレス化の進行による消費チャネル多様化への対応

③ グローバル展開の推進

- ・中国市場における当社商品や現地グループ会社の商品の販売拡大
- ・米国市場に適した商品の開発と現地法人を拠点とした販売推進
- ・東南アジア、その他目覚ましい経済成長がみられる地域への販売網の構築や販売強化

④ 経営基盤の強化

- ・安全、安心な商品を安定して供給できる生産体制の構築・維持・推進
- ・新規原材料開発や購買経路の開拓、製品仕様の見直し等によりコスト競争力を高める体制の強化
- ・AI、IoTを活用した最新の生産システムの構築による生産性や品質の向上、省人化によるコスト低減の推進
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進と社員のITリテラシーの向上
- ・食品安全マネジメントシステムの国際規格等を基に独自に策定したブルボン品質保証マネジメントシステム（BQAMS）の運用と教育の実施
- ・ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）推進のため、従業員の多様な働き方や、女性の活躍を可能とする制度の拡充
- ・健康を重視した経営方針のもと明るく生き活きと働くことのできる職場環境の構築
- ・後継者群育成計画の策定による経営幹部の養成

連 結 貸 借 対 照 表

(2022年3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	38,871	流 動 負 債	23,382
現金及び預金	16,790	支払手形及び買掛金	11,477
受取手形	84	1年内返済予定の長期借入金	60
売掛金	13,304	1年内償還予定の社債	100
有価証券	2	リース債務	254
商品及び製品	4,077	未払金	2,355
仕掛品	576	未払費用	6,450
原材料及び貯蔵品	3,479	未払法人税等	840
その他	560	賞与引当金	1,308
貸倒引当金	△4	その他	534
固 定 資 産	44,390	固 定 負 債	7,094
有 形 固 定 資 産	37,104	長期借入金	78
建物及び構築物	15,898	リース債務	582
機械装置及び運搬具	11,059	繰延税金負債	505
工具、器具及び備品	381	役員退職慰労引当金	264
土地	6,766	退職給付に係る負債	5,650
リース資産	763	負ののれん	12
建設仮勘定	2,235	負 債 合 計	30,476
無 形 固 定 資 産	1,254	純 資 産 の 部	
ソフトウェア	328	株 主 資 本	53,116
のれん	862	資本金	1,036
その他	63	資本剰余金	6,790
投 資 其 他 の 資 産	6,032	利益剰余金	46,231
投資有価証券	2,957	自己株式	△941
繰延税金資産	2,659	その他の包括利益累計額	△330
その他	415	その他有価証券評価差額金	324
資 産 合 計	83,262	為替換算調整勘定	△630
		退職給付に係る調整累計額	△24
		純 資 産 合 計	52,786
		負 債 純 資 産 合 計	83,262

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

(単位：百万円)

売上高		94,451
売上原価		70,448
売上総利益		24,002
販売費及び一般管理費		19,885
営業利益		4,117
営業外収益		
受取利息	6	
受取配当金	65	
助成金収入	111	
為替差益	424	
負ののれん償却額	1	
受取賃貸料	15	
その他の	55	681
営業外費用		
支払利息	4	
減価償却費	23	
違約金	15	
賃貸収入原価	8	
その他の	0	53
経常利益		4,745
特別利益		
固定資産売却益	0	
投資有価証券売却益	0	1
特別損失		
固定資産処分損	8	
減損損失	7	
投資有価証券売却損	3	
投資有価証券評価損	5	
その他の	0	26
税金等調整前当期純利益		4,721
法人税、住民税及び事業税	1,393	
法人税等調整額	△47	1,346
当期純利益		3,374
親会社株主に帰属する当期純利益		3,374

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					その他の包括利益累計額				純資産 合計
	資本金	資 本 剰余金	利 益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差 額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る調 整累 計額	その他 の包括利 益累計 額計	
当 期 首 残 高	1,036	6,790	43,743	△ 941	50,628	373	△ 341	△ 99	△ 66	50,561
会計方針の変更による累積的影響額			△ 285		△ 285					△ 285
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,036	6,790	43,457	△ 941	50,342	373	△ 341	△ 99	△ 66	50,276
当 期 変 動 額										
剰余金の配当			△ 600		△ 600					△ 600
親会社株主に帰属する当期純利益			3,374		3,374					3,374
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△ 48	△ 289	74	△ 263	△ 263
当期変動額合計	—	—	2,774	—	2,774	△ 48	△ 289	74	△ 263	2,510
当 期 末 残 高	1,036	6,790	46,231	△ 941	53,116	324	△ 630	△ 24	△ 330	52,786

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	8,090
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,121
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,085
現金及び現金同等物に係る換算差額	131
現金及び現金同等物の増減額	2,014
現金及び現金同等物の期首残高	14,778
現金及び現金同等物の期末残高	16,793

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(2022年3月31日現在)

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	36,861	流動負債	23,804
現金及び預金	15,504	支払手形	1,331
受取手形	84	買掛金	9,639
売掛金	13,088	短期借入金	2,085
有価証券	2	1年内返済予定の長期借入金	50
商品及び製品	3,638	1年内償還予定の社債	100
仕掛品	531	リース債務	241
原材料及び貯蔵品	3,026	未払金	1,881
前払費用	285	未払費用	6,110
短期貸付金	1,499	未払法人税等	736
未収入金	558	預り金	458
その他	60	賞与引当金	1,152
貸倒引当金	△1,418	その他	16
固定資産	44,952	固定負債	5,765
有形固定資産	36,838	リース債務	549
建物	14,967	退職給付引当金	4,939
構築物	915	役員退職慰労引当金	264
機械及び装置	10,927	負ののれん	12
車両運搬具	20		
工具、器具及び備品	317		
土地	6,747	負債合計	29,570
リース資産	720		
建設仮勘定	2,222	純資産の部	
無形固定資産	1,170	株主資本	51,916
のれん	780	資本金	1,036
ソフトウェア	328	資本剰余金	10,064
その他	61	資本準備金	52
投資その他の資産	6,943	その他資本剰余金	10,012
投資有価証券	2,819	利益剰余金	42,352
関係会社株式	981	利益準備金	259
出資金	2	その他利益剰余金	
関係会社出資金	0	別途積立金	25,030
関係会社長期貸付金	2,553	繰越利益剰余金	17,063
長期前払費用	59	自己株式	△1,538
繰延税金資産	2,356	評価・換算差額等	327
その他	310	その他有価証券評価差額金	327
貸倒引当金	△2,140	純資産合計	52,243
資産合計	81,814	負債純資産合計	81,814

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損 益 計 算 書

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

(単位：百万円)

売 上 高		91,408
売 上 原 価		68,836
売 上 総 利 益		22,572
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		18,969
営 業 利 益		3,602
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	67	
受 取 配 当 金	64	
受 取 賃 貸 料	517	
助 成 金 収 入	66	
為 替 差 益	272	
負 の の れ ん 償 却 額	1	
そ の 他	84	1,074
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	20	
賃 貸 収 入 原 価	488	
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	101	
そ の 他	39	649
経 常 利 益		4,028
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	0	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	0	1
特 別 損 失		
固 定 資 産 処 分 損	8	
減 損 損 失	7	
投 資 有 価 証 券 売 却 損	3	
投 資 有 価 証 券 評 価 損	5	
そ の 他	0	25
税 引 前 当 期 純 利 益		4,004
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,225	
法 人 税 等 調 整 額	△41	1,183
当 期 純 利 益		2,820

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本								評価・換 差額等	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本 合計		
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	利 益 準備金	その他利益剰余金					
					別 途 積立金	繰越利益 剰余金			その他 有価証券 評価 差額金	
当 期 首 残 高	1,036	52	10,012	259	25,030	15,129	△1,538	49,982	381	50,363
会計方針の変更による 累 積 的 影 響 額						△ 285		△ 285		△ 285
会計方針の変更を反映 した当期首残高	1,036	52	10,012	259	25,030	14,843	△1,538	49,696	381	50,077
当 期 変 動 額										
剰 余 金 の 配 当						△ 600		△ 600		△ 600
当 期 純 利 益						2,820		2,820		2,820
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								—	△ 53	△ 53
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—	—	—	2,219	—	2,219	△ 53	2,166
当 期 末 残 高	1,036	52	10,012	259	25,030	17,063	△1,538	51,916	327	52,243

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

○中間配当

当期の中間配当は、2021年10月28日開催の取締役会で、効力発生日を2021年12月13日とする次の支払いを決定いたしました。

中間配当 普通配当 1株当たり12円50銭

○株式の状況

(2022年3月31日現在)

(1)株式の総数

発行可能株式総数 80,000,000株
発行済株式総数 27,700,000株

(2)大株主

株主名	所有株式数	所有比率
公益財団法人ブルボン吉田記念財団	2,612 ^{千株}	10.87%
吉田興産株式会社	2,200	9.16
ブルボン柏湧共栄会	1,739	7.24
株式会社第四北越銀行	1,731	7.21
吉田康	1,172	4.88
北日本興産株式会社	915	3.81
吉田和代	888	3.70
吉田暁弘	858	3.58
吉田匡慶	671	2.79
吉田篤司	650	2.71

- (注) 1. 当社は自己株式を3,675,613株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

(3)所有者別状況

区分	株主数	所有株式数	所有比率
金融機関証券会社	13名	2,779,264株	10.03%
その他国内法人	17	180,282	0.65
外国	180	8,688,102	31.36
個人・その他	83	325,437	1.17
自己名義株式	11,908	12,051,302	43.51
自己名義株式	1	3,675,613	13.27
合計	12,202	27,700,000	100.00

役員

(2022年6月29日現在)

取締役社長 (代表取締役)	吉田	康
専務取締役 (代表取締役)	山崎	幸治
常務取締役 執行役員	浅野	和男
常務取締役 執行役員	大竹	一弘
常務取締役 執行役員	吉川	実美
取締役 執行役員	横田	昇
取締役 執行役員	諸橋	文弘
取締役 執行役員	坂井	裕次
取締役 執行役員	井手	規秀
取締役 執行役員	中野	隆
取締役 執行役員	吉田	匡慶
社外取締役	河端	和雄
社外取締役	佐々木	広介
社外取締役	尾関	幸美
社外取締役	森	邦雄
社外取締役	櫻井	孝男
社外取締役	上杉	奈保美
常勤監査役	植木	敏彦
常勤監査役	佐藤	一也
社外監査役	川上	悦男
社外監査役	宮本	照雄

会社の概況

(2022年3月31日現在)

商号 株式会社ブルボン
会社の設立 大正13年(1924年)11月20日
資本金 1,036,653,000円
本社 〒945-8611 新潟県柏崎市駅前1丁目3番1号
TEL(0257)23-2333(代) FAX(0257)22-2005
ホームページアドレス <https://www.bourbon.co.jp/>
お客様相談センター 0120-28-5605

ブルボングループ

従業員数 4,262名

営業品目群	ビスケット	小麦粉せんべい
	豆菓子	キャンデー
	デザート	米菓
	スナック	珍味
	チョコレート	チューインガム
	ミネラルウォーター	コーヒー・ココア飲料
	その他清涼飲料水	粉末ココア
	冷菓	酒類
	米(通販のみ)	パン・インスタントラーメン(自販機のみ)
	マ ス ク	

販売拠点(営業所等)

赤坂オフィス(東京都港区)、神戸オフィス(神戸市)、北海道・東北(仙台市)、
北信越(柏崎市)、関東(川口市)、中部(北名古屋市)、中国・四国(広島市)、
九州(福岡市)
中華人民共和国(上海市、北京市、浙江省杭州市)

生産拠点

新潟県(柏崎市、新潟市、長岡市、上越市、新発田市、村上市、五泉市)
山形県(鶴岡市)
埼玉県(和光市)
長野県(北佐久郡御代田町)
中華人民共和国(浙江省湖州市長興県)

株式についてのご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	毎年6月下旬		
基準日	定時株主総会・期末配当	毎年3月31日	
	中間配当	毎年9月30日	
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社		
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社		
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部		
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)		

- ・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

- ・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

なお、お手続き方法やよくあるご質問は、次の「よくあるご質問 (FAQ サイト)」
でご確認いただけます。

よくあるご質問 (FAQ)

https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal

また、右のQRコードをスマートフォンまたはタブレット
端末で読み取って接続していただくこともできます。



ブルボン

ブルボンは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。



環境に配慮した植物油インキを
使用しています。